

## 音楽鑑賞指導の研究と実践

### パリのサロンを教室に——ショパンのピアノ音楽を教材化



#### 平成14年度音鑑「夏のセミナー」研究報告1(小学校編) 教材『小犬のワルツ』+『トロイメライ』

埼玉県川越市立高階北小学校教諭 粟飯原喜男

#### ショパンの名曲に親しむ 第1日

ピアノの小品の名曲というと、まず『エリーゼのために』あたりが思い浮かぶ。子どもも一度は耳にしたことがあるだろう。とはいえ、鑑賞共通教材があった時代にもピアノ曲はあまり選ばれていなかったようだから、子どもたちがいちばんよく知っているのは今も昔も『ネコふんじゃった』かもしれない。

そこで今年の夏ゼミでは、私たちもよく知っているようで実はよく聴いていない(?)ショパンの《ワルツ集》から『小犬のワルツ』を取り上げることにした(学習指導要領、中学年、鑑賞[2]、教材選択の観点「ア」「ウ」に対応)。この曲はショパンが祖国ポーランドのワルシャワを後にしてパリに出てから——だから21歳以後に——書かれている。パリでのショパンは伯爵夫人たちのサロンのアイドルとなったが、そのために書かれた作品の中でも特に人気を博したのが「ワルツ」であった。わかりやすい曲想のうちにも華やかさと繊細さと気品とをたたえたショパンの「ワルツ」は確かにパリの社交界をほうふつさせる。また、そうした環境がなかったら彼の作品も生まれなかったかもしれない。

このサロンの趣きを漂わせる6名の淑女

が、ショパンと共に2泊3日を過ごすことになった。(敬称略)

#### A班

- 山中 佳子  
東京都分寺市立第一小学校教諭
- 石井 ゆきこ  
東京都葛飾区立堀切小学校教諭
- 浦田 祥子  
千葉県船橋市立二和小学校教諭
- 池田 順子  
東京都品川区立第一日野小学校教諭
- 志村 恵子  
神奈川県川崎市立古市場小学校教諭
- 守屋 美加子  
兵庫県宝塚市立西谷小学校教諭

助言者は、東京都羽村市立羽村西小学校の橋本研教諭と、私とで務めた。

午後1時、この曲の比較聴取からスタートする。テーブルの上に積み上げられたCD類の多さに目を奪われる。何と言ってもこの曲のセールスポイントは、短いこと(その長さの中に音楽のエキスが詰まっているのだからたまらない)。さっそく音鑑が作成してくれた資料リストを頼りに聴き比べを行なった。

ピアノ独奏(CD)…コメントは受講生の感想から。

- イェルク・デムス(1'33")跳ね回るような感じ。変化がなく淡泊。
- アーサー・モレイラ・リマ(2'00")テンポの変化が激しい。情景想像に適している?
- クリスチャン・ツィマーマン(1'50")力強さやスピード感のある華やかな演奏。
- アルトゥール・ルビンシュタイン(1'48")落ち着いた安定した演奏。
- イグナツ・フリードマン(1'22")“疾走する”いちばん速い演奏。トリオの前打音が目立ち犬がキャンキャンと鳴いているように聞こえる(この演奏は1930年代のSP録音の復刻盤のためヒスノイズがかなり目立つにもかかわらず、気がついたら何度となく繰り返し聴いていた)。
- ウラディミール・アシュケナージ(1'49")左手の刻みがわかりやすい。最後の和音が印象的。

その他LD、DVDの比較聴取、アレンジものの演奏など30種類の音源を夕刻まで聴き比べた(この間の話し合いを石井教諭はパソコンでリアルタイムで詳細に記録してください。感謝)。懇親会を兼ねた夕食の後、この曲の教材性を大まかにつかむことにした。学習指導要領、中学年の鑑賞

- (1) ア、イ、ウと照らし合わせてみる。
  - ア、曲想、情景想像
  - イ、音楽を特徴づけている要素(速さや拍子など、主な旋律の反復と変化)
  - ウ、楽器の音色(ピアノ)

そして、子どもがこの曲を耳にしたとき、直ちに気づくことや感じることは何かを出し合った。

何と言っても、1分30秒あまりであっという間に終わってしまうスピード感(急速感)であろう。次に、ピアノの音色や奏法に心を奪われるかもしれない。それも、映像を効果的に使えば、演奏表現だけでなくテクニク的な部分にも関心をもつようになるであろう。——という予測を立ててみた。午後11時をまわった頃、題材名「ピアノ



A班のグループ研究

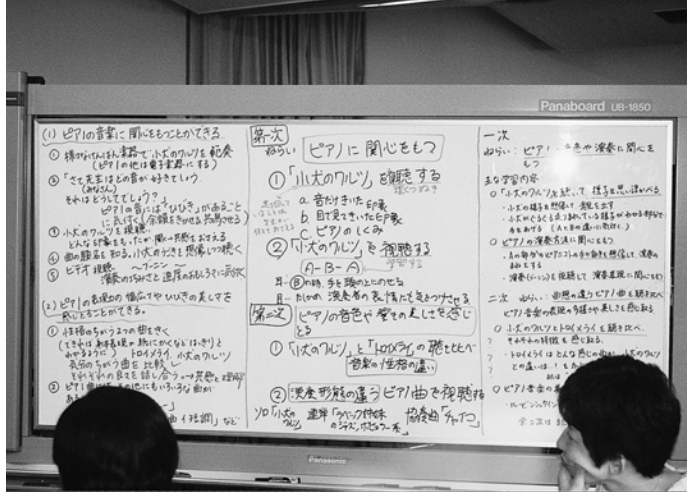
の音楽に関心をもとう」が決定した。この日何十回となく聴いたワルツが全員の耳から離れず、とうとう楽譜を手にしてピアノに向かい始めた。深夜のサロン・コンサートである。指名されたソリストは名手、池田順子教諭。「あれ? まだCDかけてるの?」と勘違いされるほどの名演であった。「そうだ、研究発表(模擬授業)の時、池田先生に生演奏をお願いしては?」という話でもち上がったが、「待てよ、生演奏に勝るものはないけど、この曲をふだん授業で完璧に弾ける先生って多くないはずでしょ?」。…このゼミの趣旨は、なるべくこの学校でも実施可能な指導プランをつくるということ。で結局、CDを使ってできる授業を目指すことになった。ともあれA班は、池田先生の生演奏にショパンの魅力を改めて感じさせられたことであった。

#### 指導計画の立案から研究発表へ

##### 第2、3日

2日目、まだまだ余力を残して迎えた朝。しかしここからがザ・ロンゲスト・デイの始まり。いよいよ具体的な学習指導案の立案である。指導計画は1、2時間扱いにとどめ、展開も20分程度のショート・プログラム、との確認を行なう。題材の目標にどうしたら迫ることができるか、考え得る活動を6名がそれぞれに出し合った。

考えられる具体的な活動(○導入 ◎主となる活動 ●発展的な活動)



○導入 ・動物当てクイズ ・いろいろな動物の歌を歌う ・犬の映像を見る ・音色の聴き比べ（リコーダーや鍵盤ハーモニカなど） ・楽器当てクイズ ・ピアノに触れる ・よく知っているピアノ曲を聴く ・犬の様子を想像する ・演奏場面の映像を見る

◎展開 ・指や手を使った身体表現をして曲想を感じ取る ・線で描きながら曲想を感じ取る ・演奏表現の異なる演奏を聴き比べる（●にも） ・性格の異なる曲を聴き比べる（『小犬のワルツ』と『ユーモレスク』） ・演奏形態の異なるものを聴き比べる（ピアノとオーケストラ） ・生演奏を聴く（●にも）

●発展 ・連弾曲や協奏曲を聴いて比べ、さまざまなピアノの演奏表現の可能性を知る ・友達的生活の一日をピアノ曲でつづる（ピアノ音日記）

この作業には午前中をフルに使い、提示された活動プランに実際に簡単な発問のことばを加え、音を聴きながら、この曲のテンポに負けない早口の討論で検討を進めていった。そこでわかったことは、この曲では通常の、指や手を使って行なう身体表現は少し無理があるのではないかということである。実際にCDを聴きながら全員で動きをつけてみたが、ただグルグル回る動き（身体表現）しかできず、音楽の特徴をとらえるには少々弱いという結論に達した。また、映像を使つての聴き比べはどうして

のステップで確かめ合ったりする活動ではかなりの効果がある、といったことも話し合った（スタニスラフ・ブーニンとミー＝ジョー・リーのLDを比較しながら）。

午後は、6人が第1時の指導の流れを立案する作業に突入。2台のホワイトボードを使つて各自の案を書き上げていく。書き上がったときの感嘆の声は、やっとここまでたどり着いたなという安堵感。6人6通りのプランを比較検討した結果、次のような柱立てが決まった。

導入

- ・『小犬のワルツ』を聴いて曲の感じをつかむ。

展開

- ・映像を視聴してピアノの演奏の仕方に関心をもつ。
- ・曲想の異なる『小犬のワルツ』と『トロイメライ』を聴き比べる。
- ・映像を見て、2曲のよさを感じ取る。

ここで次の難関に至った。鑑賞の授業では、いかにねらいにフィットした音源を選択するかが重要なカギを握る。まずは子どもたちにピアノのもつ魅力をストレートに訴え、かつ曲想をつかみやすいベスト盤を選ぶことから再出発した。その結果、横山幸雄が1998年に録音したCDが選ばれた。世界の名だたる巨匠たちを押しつけて日本人ピアニストが当選したのも意外だったかもしれない。一方、比較して聴く『トロイメライ』については、癖のないピアノの美

も視覚の優勢を免れないから、ピアニストを中心に映すという演出効果によって視・聴く者のイメージの幅が自然せまくなる。ために本来のねらいである演奏表現の違いなどが感じ取りにくくなる。しかし映像は音だけで感じ取ったことを次

しさが発揮され、長くゆったりと続く旋律が感じ取りやすいCDを探すのにかなりの時間を費やした。こちらはイェルク・デムス盤に決定。

次は映像資料の番である。選択のポイントは、子どもがピアノ演奏に憧れを抱き、曲のよさが心に染み込んでいくような演奏であること。横山盤とデムス盤に限りなくイメージの近い演奏にようやくたどり着くことができた。それは子どもの集中力がピアニスト以外に逸れていかないような映像シーンの続いているLDである。

ピアノ独奏（LD）

『小犬のワルツ』（p）ミー＝ジョー・リー盤

『トロイメライ』（p）クラウス・ヘルヴィヒ盤

その後、学習指導案の作成、そして授業者を務めてくださる浦田洋子教諭の模擬授業のシミュレーションへと、プレストの速さでぐんぐん押し進んでいった。

第3日の研究発表はわれわれA班が最初



A班の6人の淑女と助言者2氏。左端は橋本研先生

なので、早めに準備に取りかかった。視聴覚機器のチェック、板書、掲示物の確認の後、いよいよ本番。浦田教諭の明るいキャラクターを前面に出し、教師としての発問と言葉遣いにも細心の注意を払って授業が進められる。発問や音源使用など、何回ものリハーサルを重ねた結果、余計なものはなるべく削ぎ落としていくというコンセプトから全てにおいてシンプルな形式となって展開されていった。

事後の講評では、子どもの表情やつぶやきなどを具体的にどう評価に結びつけていくか、ショートプログラムをどう指導計画に組み入れるかなど、今後の実践への課題を示唆していただいた。

ピアノ音楽——ショパンの世界にどっぷりとつかった3日間、いつでもどんな時でも必要な音源がすぐそこにあることに、驚き感動しまくっていた6人の淑女たち。これからは、ご自身でセレクトした音源で、子どもたちの心を感動という果てしない宇宙へいざなってほしいと願っている。

## 小学校音楽科学習指導案（第4学年）

### 1. 題材 「ピアノの音楽に親しもう」

#### 2. 題材について

中学年は、楽器の音色の特徴を聞き分け、演奏方法に興味をもつ時期である。その中でもピアノは音楽室にもあり、子どもたちが日頃から音を耳にする身近な楽器である。しかし、その演奏をじっくり聴き、よさに浸る機会は少ない。そこで、本題材では、子どもが親しみやすい曲想の異なるピアノ曲を聴き比べて、ピアノの音色や響きの美しさ、表現の多様さを感じ取ったり、プロの演奏家の技巧の素晴らしさに憧れをもったりすることができるようにしたい。

#### 3. 題材の目標

- (1) ピアノの音楽に関心をもつことができる。
- (2) ピアノの音色や響きの美しさを感じ取って聴くことができる。

#### 4. 評価規準

- ア. ピアノの音色や演奏の仕方に関心をもって、聴いている。〈音楽への関心・意欲・態度〉  
 イ. 演奏の仕方の特徴を感じ取って聴いている。 〈音楽的な感受や表現の工夫〉  
 ウ. ピアノの音色や曲想の違いを感じ取って聴いている。 〈鑑賞の能力〉

#### 5. 教材と教材選択の観点

『小犬のワルツ』 ショパン作曲

小犬が自分の尻尾を追ってぐるぐる回る様子を見てできた曲である。三部形式で、旋回するような旋律の主部とゆるやかな甘美な旋律のトリオからなる。急速感が醸し出す雰囲気は子どもの興味を惹く。また、映像を見せることで、演奏家の華麗なテクニックに関心をもたせたい。  
 〈使用音源〉

CD：横山幸雄（1'44"） オートドックスで華麗な演奏であり、主旋律の急速感、ピアノの音色や響きの美しさを感じ取りやすい。

LD：ミー＝ジョー・リー演奏（1'45"） すっきりしてテンポの揺れが少ない演奏である。手の動きをアップで映し出すシーンが多く、演奏の仕方に注目して聴くことができる。

『トロイメライ』 シューマン作曲

上行し下降する4小節の旋律が8回繰り返される。その都度、和声の変化に伴ってニュアンスが微妙に変化し、曲名のごとく、夢見心地の気分になる曲である。速さや曲の気分が対照的な『小犬のワルツ』と比較して聴くことで、ピアノの内面的な落ち着いた表現を味わわせたい。  
 〈使用音源〉

CD：イェルク・デームス演奏（2'56"） 旋律の美しさを味わいやすい品のよい演奏である。テンポは遅すぎず、子どもが聴くのにほどよい曲の長さ（3分以内）である。

LD：クラウス・ヘルヴィッヒ演奏（2'36"） 安定した端正な演奏で、録音の状態がよく、演奏者を映し出す角度もよい。但し、テロップが入っているのがやや難点である。

#### 6. 指導計画（2時間扱い）

第一次（2時間扱い 25分×2回）

ねらい ピアノの音色や響きの美しさを感じ取って、ピアノの音楽にあこがれをもつことができるようにする。

### 主な学習内容と学習活動

#### 第1時

- 『小犬のワルツ』を聴いて曲の感じをつかむ。
  - ・『小犬のワルツ』を聴き、ピアノの演奏であることに気づく。（1回目）
  - ・どんな感じの音楽か、気づいたことを発表し合う。（2回目）
  - ・子どもたちの気づいたことを確認する。（3回目）
- ピアノの演奏の仕方に関心をもつ。
  - ・映像を視聴し、話し合ったことを確認したり、新しいことを発見したりする。

#### 第2時

- 曲想の違いを感じ取る。
  - ・曲想の異なる『小犬のワルツ』と『トロイメライ』を聴き比べる。
  - ・『トロイメライ』を聴いて、気づいたことを短冊に記入する。
- ・2曲を聴いて確かめる。
- ピアノの演奏に親しむ。
  - ・映像を見ながら、2曲を味わって聴く。

#### 7. 本時の展開（第2時）

- (1)ねらい 曲想の違いを感じ取り、ピアノの音色の美しさやそれぞれの演奏表現のよさを感じ取って聴く。
- (2)展開（25分）

○学習内容	・学習活動	◇教師のかかわり	☆評価
○曲想の違いを感じ取る。 ・『小犬のワルツ』を聴き、前時の学習で感じたことを思い出す。	・『トロイメライ』を『小犬のワルツ』と比べて聴く。 ・『トロイメライ』を聴いて感じたことを短冊に書く。	◇板書「ピアノの音楽をきこう」 ◇前時に聴いたときに気づいたことを書いた短冊を黒板に貼っておく。 ◇曲に合わせて指揮をするなど、身体表現をしてもよいことを伝える。 CD『小犬のワルツ』（1'44"） CD『トロイメライ』初めの部分 CD『トロイメライ』（2'56"） ◇短冊を配り、書いたものを似た内容ごとに掲示する。 ☆『トロイメライ』の曲想を感じ取って、短冊に書いている。 ◇感じたことや2曲の違いを確認してから、曲名を知らせる。 CD『小犬のワルツ』『トロイメライ』	☆評価
○ピアノの演奏に親しむ。 ・2曲を視聴し、演奏表現のよさを味わって聴く。		◇子どもが集中して聴けるように、一緒に視聴する。 LD『小犬のワルツ』（1'45"） LD『トロイメライ』（2'36"） ☆2曲の演奏を集中して視聴している。〈ア〉表情観察	

#### 8. 本題材の指導に当たっての工夫

- ・曲想の対照的な2曲を比較することで、ピアノの演奏表現の幅の広さを味わうことができるようにした。
- ・一人ひとりを感じ取ったことを生かし、曲想の違いを全員で確かめ合うために、短冊に記入して、〈曲想〉〈速さ〉〈その他の音楽の要素〉に分けて掲示した。

# 音楽鑑賞指導の研究と実践

## 「表現と鑑賞の関連」をめざした授業ができ上がるまで



### 平成14年度音鑑「夏のセミナー」研究報告2（中学校編） 教材『パッヘルベルのカノン』

東京都足立区立第十四中学校教諭 松田真紀子（Cグループ助言者）

#### I. 題材設定から選曲まで

今年度からの新しい教科書には「いろいろなアンサンブルを聴こう」という項目（題材）がある。1年生には初期バロックから現代のジャズまでの多様なアンサンブルが、また2・3年生（上）では、いわゆるクラシック音楽の中から時代や編成の異なる曲の名が掲載されている。これまでの鑑賞教材とは多少趣きを異にした印象を受けたため、何かの形で取り扱ってみたいと思っていた。ちょうど、今回助言者として一緒にグループを受け持つ宮下秀邦教諭が、アンサンブルを毎年実施していたので、表現活動と関連させる題材に決定した。1回目の夏ゼミ事前委員会の時であったが、まだ題材名は「アンサンブルの……」の段階だった。

その後中学校分科会では3～4回の打ち合わせを持った。いちばん悩んだのは“教材を1曲だけ提示するか”という点である。参加する先生方の立場から考えると、教材曲が決まっていた方が研究は速く進むが、その曲に魅力を感じない場合はやはり辛い。結局、昨年は結構好評だった教材選びから、今年も始めることにした。しかし、何曲かの候補は予定しておかなければならない。教科書の鑑賞曲を皮切りに片端から聴いた。編成が大きすぎたり、曲の長さが適

当でなかったり、なかなか見つからない。日本の曲もと思い、三曲合奏を探したが、歌の入ったものしかなかった。聴き疲れた時耳にしたモーツァルト作曲『クラリネット五重奏K.581』の演奏が美しく、何か心に響くものがあった。

私自身は本番で中学校部会の「実際例の提示」を担当するため、題材の計画や教材の選定は宮下教諭によるところが多かった。しかし、もうひとつの中学校Dグループの助言者と共に準備した会議は、気がつく21時半を過ぎていたこともしばしばであった。みな通知表を抱えながら集まった夜もあり、音鑑夏ゼミの重みを改めて実感した。

そして、連日の真夏日の中、夏ゼミが始まった。昨年までは2泊4日と言われていた日程が1日少なくなっているが、グループ研究の時間はこれまでより長く設定されている。ありがたい反面、安心してはいけなかった。今年は2泊3日か、0泊3日かと、多少不安な始まりだった。

#### II. 研究の流れ

##### 1. 題材の提示と確認事項

###### C班

福島理恵

北海道岩見沢市立明成中学校教諭

柘宗知子

山口岩国市立平田中学校教諭

佐藤真実子

広島市立安佐中学校教諭

杉村みさ子

福岡県北九州市立尾倉中学校教諭

塚原航太

長崎県美津島町立鶏知中学校教諭

楠原美保

鹿児島市立東桜島中学校教諭

Cグループが顔を合わせたのは、初日の午後1時半。自己紹介の後とりあえずこの日の役割分担をして、宮下教諭から出された題材の指導計画「すばらしいアンサンブル」の検討に入った。表現の内容と関連を

図った鑑賞の学習である。教材を選ぶには、  
a. 表現に関連した鑑賞にするために、表現の演奏形態と同じような楽曲を  
b. 楽器の種類にこだわらず、アンサンブルのよさを感じ取れると同時に、音楽観を広げられるような楽曲を  
の2点で意見が分かれたが、表現の手本にするための単なる聴取ではなく、楽曲を聴き深めることが大切であるという認識のうえで、「b」を採用することになった。

ここで表現活動としての「アンサンブルのよさ」とはどのようなことが挙げられるだろうかを話し合った。

- a. 一つのものを作り上げる
- b. 一人1パートを受け持つ責任感
- c. 響きやハーモニーを味わう
- d. 各パートが合ったときの一体感
- e. 対位的なかけ合い
- f. 他のパートへの配慮
- g. 発表での成就感

など、いろいろな場面で達成感が味わえるのである。

以上のような確認事項をふまえ、今回の鑑賞の活動は6時間扱いの題材の中でいちばん最初に設定し、生徒がアンサンブルのよさを感じ取れる活動、とした。

この最初の確認で、2時間が経過した。

#### 2. 教材曲の選曲

宮下教諭はあえて数曲を提示したりせず、受講生の方々に決めていただく方針を打ち出した。Cグループの研修室には、音鑑資料室から多くのソフトが持ち込まれている。まず教科書準拠のLDから2曲視聴したところで、カナディアン・プラスの演奏を映像なしで聴いてみた。“ただ聴くだけでは”というので、宮下教諭が作成してきた“教材性メモ”のプリントに、諸要素の働き、曲の雰囲気やイメージなどを書き込んでいった。約20曲、リコーダー、金管・木管楽器、弦楽器、ギター、ケーナやシークなど、さまざまな楽器のアンサンブルからヴォーカルまで、聴きながら教材性を確認した（これだけ豊富な音源を多くの時間をかけて聴ける、ゼミの醍醐味を感じた）。中には同じ曲が異なる編成の楽器で演奏されていて、比較に適していると考えられるものもあった。

ここで2時間半が経過したが、最適と言える曲がなく疲労感が漂った。

懇親会を兼ねた夕食後、既に午後9時近く、迷う気持ちを初心に戻って整理してみた。まず、アンサンブルとは、その学習のねらいとは何か、を再確認した。

- a. アンサンブル：  
フランス語で“一緒に”や“共に”を意味する。
- b. アンサンブルを通して学びたいこと：
  - ・和声感
  - ・多種類の楽器で一つの音楽ができる音色の混じり合い
  - ・楽器の個性を生かす
  - ・曲の表現や美しさ

教材選択の作業が続く。話し合いながら20曲の中から選んだ結果、次の9曲があがった。さらに、この9曲を何回も聴いてその教材性を洗い出し、的を絞った。

- ア. リコーダー合奏『フーガ』（ヘンデル）
  - ・バランスや音色が美しい
  - ・かけ合いのおもしろさがある

イ. 弦楽四重奏曲第3番から Presto  
(ベートーヴェン)

- ・演奏者の息が合っている
- ・パートの音がはっきりしている
- ・メロディーが分かりづらく難しい

ウ. 弦楽セレナード 第1楽章  
(チャイコフスキー)

- ・最初のユニゾンのインパクトが強い
- ・一人1パートでなく、演奏人数が多い
- ・曲が8分を越え、長い

エ. ギタートリオ『地中海の踊り』  
(アル・ディメオラ)

- ・生き生きしてアンサンブルの楽しさが伝わる

- ・雰囲気はよいが、主教材には無理

オ. ヴォーカルアンサンブル『フーガ』  
(J.S.バッハ)

- ・かけ合いのようすがよく伝わる
- ・この題材では、演奏は楽器の方がよい

カ. 金管アンサンブル『カノン』  
(パッヘルベル)

- ・曲が有名である
- ・かけ合いや楽器の音色が美しい
- ・オスティナートの役割が出ている
- ・映像はややふざけているが、音声だけでは長く感じる

キ. リコーダーとガンバの合奏『ガイヤ

ルド』(バタイユ)

- ・ハーモニーが美しい
- ・息のあった演奏である

ク. 金管アンサンブル(キと同じ曲)

- ・それぞれの楽器の特徴が生きている
- ・合わせるタイミングなど学べる

ケ. リコーダー四重奏『ゆかいな牧場』  
(アメリカ民謡・川崎祥悦編曲)

- ・曲想の変化がつかめる
- ・タンギングなど技法が学べる

また初心に戻り、この題材における鑑賞の学習の位置づけを確認した。

表現のアンサンブル活動に直接生かすための鑑賞ではない。鑑賞した曲の演奏から和声やアンサンブルの方法などを学び、音楽観を広げる。

夜が更けるのも気にせず、2日目の展示を開きたい一心で論議を重ねた結果、アトカが教材として決定した。1日目の終了は、やはり翌日になっていた。

### 3. 指導案作り

前日の研修終了から7時間経った午前8時半、2日目が始まった。教材曲は決まっている、学習のねらいも設定できている、たいへん明るい見通しである。

まず、2日目から研究発表までの最終役

割分担を決め、新たな気持ちで出発となった。宮下教諭からの指示で、決定した2曲を使った指導の流れを各自で作る。2時間足らずのうちに6人の先生方の指導案がそろい、検討を始めたところ教材曲が『カノン』に集中していた。『フーガ』は演奏時間が短く、リコーダーだけの三重奏であるため、鑑賞の学習としてじっくり扱うにはもの足りないのだ。また、『カノン』の学習の初めが“曲の雰囲気などを自由な発想でとらえる”流れが多く、私個人で「実際の提示」の責任を感じた。ここで次のことを確認し、午前中が終わった。

- 教材曲は『カノン』とする。
- 学習のねらいは  
“個々の楽器の音色やアンサンブルの響きの美しさを感じ取る”。

### 4. 指導案の推敲とシミュレーション

1回目ではこのような状況であった。

#### 〈指導の流れ〉

- ①曲の雰囲気を感じ取る。
- ②各楽器の音色やアンサンブルの響きを感じ取る。
  - ・音が重なっていくようす
  - ・使われる楽器とその動き
- ③視聴する。

#### 〈疑問点→改善点〉

- ◇②の段階では楽器の区別がしづらい  
→ワークシートに楽器の絵を入れて、選べる方式にする
- ◇①では意見をたくさん出させたい。  
→演奏を聴く回数を増やす  
→発問に注意する

指導案の焦点を明確にするために、カナディアン・プラスの演奏による『カノン』のよさについて話し合った内容を、情意面と構造面に分けてみた。

- 情意面：
  - ・旋律の美しさ
  - ・落ち着いた気分
  - ・安定、安心感
- 構造面
  - ・旋律の重なりとかけ合い、融合

- ・各パートが作るハーモニー
- ・ベース音の繰り返し
- ・対位法的統一感
- ・小編成のアンサンブル

特に②の部分の修正が中心である。楽器の種類の聴き取りは①に加えた。“旋律の重なり合い”“かけ合い”“安定感のあるハーモニー”の3点が聴き取りやすいように、A初めの部分、B中間部、C終わりの部分、に分けて展開してみた。楽器の写真付きのワークシートも作成された。ABCのそれぞれの部分で、指導者が求める答えを引き出すための説明が多すぎた。評価の面では、他の人の意見をワークシートで分けて書くようにすると生徒個人の聴き取れた内容が分かりやすい、等の意見が出た。

再び修正。今度のワークシートには、写真のなかったユーフォニアムのために、手書きの絵が入った。意見も分けた。練り直した指導案でシミュレーションを行なった。楽器の選択に注意が向けられ、楽曲の雰囲気をつかむことが難しい、全体的に構造的側面の理解に偏っているのではないかと、かなり根本にかかわる反省となった。

3度目の修正と実施を経て、指導案は目的を絞ったシンプルなものに変身した。楽器については最後の視聴で明らかになるので取りやめ、部分の聴き取りはA、Bに減らした。他の人の意見を記録することも削除し、音楽を聴く時間を多くした。学習のねらいは“アンサンブルの楽しさを感じ取らせる”とし、ワークシートに“今日のテーマ”の欄を設け“アンサンブルの楽しみ”と記入できるようにして、結果的に最後となるシミュレーションに入った。

授業者の福島教諭は一つ一つの発問に注意しながらシミュレーションを進めた。みんなの意見をうまくまとめ、何回も板書した楠原教諭。ご自分のパソコンで奥の手を使ったワークシートを作り直し、慎重に機器操作をくり返した塚原教諭。シミュレーションで活発な意見を出しながら、修正を



今年の参加者とスタッフ全員

重ねた指導案を手早く打っていく佐藤教諭。全体の流れを見ながら、発表用の正確な経過報告を作る杉村教諭。班長の榊宗教諭は出てくる意見を上手にまとめてくださった。6人の連係プレーが、結局、夜中まで続いたのである。

### Ⅲ. 研究発表とまとめ

今年は各グループ60分の時間内で研究発表をする。順番は2番目だが、前のグループから休憩なしの日程のため、準備時間で発表に食い込んでしまう可能性もある。前回もそうであったが、私自身が発表するわけでもないのに何か緊張感を感じる。幸いAグループが時間内に終了してくれたので、多少余裕をもって発表に入れた。

宮下教諭がこの題材の説明をし、受講生のみなさんに“1年の時に簡単なアンサンブルの経験をもつ素直な2年生”になっていただいた。

模擬授業が始まる。1日半のチームワークの成果が発揮される時だ。

①で出た意見は、情意面と構造面に分けて板書するところがポイントである。構造面の中から、②の部分聴取に迫る内容のものが出れば、特にAは確認として進めていく。これも前日のシミュレーションでおさえたことである。次の表現活動であるアンサンブルへ繋げる最後のまとめが難しかった。丁寧に話し出すと、説明が多くなりすぎるからだ。前日たくさんの時間をとって意見を出し合ったので、発表ではうまくまとまった。

模擬授業に続く研究経過説明の後の協議では次のような意見を交換した。(○質問、意見 ●グループの回答 M宮下助言者の補足)

#### (1) アンサンブルのよさについて

○知的理解に偏っている感じがするが、アンサンブルのよさをどのようにとらえているか

●情意面と構造面のバランスは考慮し

た。

M気づきや特徴がアンサンブルのよさにつながっていく。今回は『カノン』のよさやおもしろさがアンサンブルの楽しさにつながっている。知的面に偏りそうになる時は感じた内容に戻ることが大切だ。そのため発問が難しかった。

#### (2) 曲や演奏について

○この演奏形態だけにした理由は

●授業時間が短い中で多くを聴くより、これだけに焦点を絞った。

Mアンサンブルのようすを見ることも学習の内容だった。

○表現の活動との関連を考えると、表現に直結するものだけと安易にとらえがちだが、今回のように少しレベルの高い教材を使うと、深みが増してよかった。毎回の授業で“今日の1曲”として短いアンサンブル曲を扱ってもよいと思う。(Dグループ助言者、大塚教諭)

#### 〈音鑑研究主管、吉田時雄先生から〉

音楽の美しさは楽曲そのものと演奏から感じ取れるものである。今回は表現と鑑賞の活動が関連づけられた総合的な学習になっている。

教材は、子どもの立場に立って感じ取り、聴き取りやすい楽しめる曲だった。演奏も小編成ではあるが、音楽的な豊かさのあるよい演奏だ。さらに子どもの興味を導き出すためには、導入でもっと長く聴けるようにするとよい。全体的に聴き深めるための分析が多いように感じた。“よさ”とは、その曲や演奏がもつ特性や価値のことである。

#### 〈夏ゼミ委員長、小原光一先生の講評〉

音に集中することは、後の表現の活動で機能する力を培うことになる。模擬授業では、生徒の意見を大切にしながら進められた。

“よさ”とは、題材によって変わってくるものであるため、題材の設定が大切である。(大意)

## 中学校音楽科学習指導案（第2学年）

### 1. 題材名「すばらしいアンサンブル」（1月～2月：6時間扱い）

### 2. 題材設定の理由

3学期に1、2年生を対象に「アンサンブル」の活動を行なう。活動の形態をグループ（学級の生活班、あるいは抽選による男女混合班）とし、次の4つの活動を生徒の主体的な取り組みによって運営させる。

①選曲 ②パート編成 ③練習 ④発表会

この「アンサンブル」は表現活動（器楽）の総合的な取り組みといえる。学習指導要領に示されている表現の8つの内容のうち、半数の項目を含んでいる。さらにそれらの内容に、鑑賞の内容も関わらせた授業を工夫することにより、「音楽の活動」を総合的にとらえさせることができると考え、本題材を設定した。

### 3. 題材の目標及び指導内容

○アンサンブルの取り組みによって、楽器による表現を工夫させるとともに合奏する楽しさを味わわせる。

・美しい音色を意識して表現の工夫をする。(ウ)

・声部の役割を感じ取り、全体の響きに気をつけて合奏をする。(エ)

・いろいろな音楽素材を用いて、自由な発想による即興的な表現や創作をする。(カ)

・音色、リズム、旋律、和音を含む音と音とのかかわり合いを感じ取って表現を工夫する。(キ)

・速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫する。(ク)

○鑑賞の活動を通して、諸要素の働きによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くことができるようにする。

・楽器の音色、リズム、旋律、和音を含む音と音とのかかわり合いをとらえ、楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと。(ア)

・速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を理解して聴くこと。(イ)

### 4. 教材となる楽曲等

◇表現：①器楽の教科書を参考に各グループで選曲する、アンサンブルの曲。

②生徒が自主的に選曲した楽曲。

◆鑑賞：○『カノン』 バッヘルベル作曲 カナディアン・プラス編曲・演奏

### 5. 評価計画

#### A 表現

ア 音楽への関心・意欲・態度

意欲的に個々の活動に取り組んだり、すすんでグループ活動に参加したりしている。

イ 音楽的な感受や表現の工夫

素材となる楽器を選び、その楽器の音色などを意識して表現の工夫をしようとしている。

ウ 表現の技能

・曲想に応じた表現や、美しい音色に留意した表現ができる。

## B 鑑賞

ア 音楽への関心・意欲・態度

・アンサンブルの演奏に耳を傾けている。

イ 音楽的な感受や表現の工夫

・楽器の音色や、諸要素の働きを感じ取って聴いている。

エ 鑑賞の能力

・強弱や、旋律のくり返し、かけ合い、楽器の音色などによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を意識して、楽曲を味わって聴いている。

## 6. 活動の形態

(1) 表現活動においては学級ごとの生活班を母体としたグループ活動

(2) 鑑賞活動においては主として全体、一部グループ活動

## 7. 指導計画

次	時	学習のねらい	生徒の学習活動	教師の支援・留意点	評価
第一	第一	1. アンサンブルの楽しさを感じ取る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">楽器の音色の美しさ</div> ○『カノン』 旋律の絡み合いなどを聴き取り、アンサンブルの楽しさを味わう。	●個々の独奏楽器だけではなく、全体の音、繰り返しの旋律などにも注目するよう支援する。	Bア Bイ Bエ
第二	第二時～第四時	3. 協力してアンサンブルの活動に取り組む。 ・美しい音色 ・全体の響き ・楽曲に合った楽器の選択 ・効果的な旋律の創作	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アンサンブルの楽しみ</div> ○グループ活動に取り組む。 ・選曲 ・パート、役割決め ・練習計画作成 ・グループ練習	●学級の生活班を母体とし、グループ活動が円滑に進むよう、選曲や使用楽器、パート編成等について助言する。	Aア Aイ
第三	第五時～第六時	4. アンサンブルの準備や発表を通して、演奏する楽しさや自他の演奏のよさを評価し合う。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アンサンブル発表会を成功させよう</div> ○プログラムを決め、演奏会形式で学級ごとにアンサンブル発表会を開く。 ・リハーサル ・本番演奏 ・まとめ	●生徒に自主的な運営をさせるよう助言する。	Aア Aイ Aウ

## 8. 本時の展開 (第1次 第1時)

(1) ねらい アンサンブルの楽しさを感じ取らせる。

(2) 展開

○学習内容	・学習活動	◇教師のかかわり ☆評価
①『カノン』を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。 ・感じたことをメモする。		◇自由な発想で聴かせる。(途中まで、数回) ◇出てきた意見を、情意面(感じたこと)、構造面(気づいたこと)に分類し板書する。 ☆Bア: 観察
②楽器の音色やアンサンブルの特徴を聴き取る ・2つの部分(出だしの部分、中間部分)を聴き、重なり合い、かけ合いなどのようすをワークシートに記入して発表する。		◇2つの部分(A出だしの部分、B中間部分)を聴かせる。  ☆Bイ、エ: ワークシートや発表内容
③本時のテーマを知る。 ・アンサンブルの楽しさに気づく。		◇②の活動をまとめ、アンサンブルのよさや楽しさを導き出す。  ◇この演奏の映像について説明しておく。  ☆Bア、イ、エ: ワークシート ◇次時の活動に対する生徒の意欲を高める言葉でまとめる。
④まとめ ・全曲を視聴し、感想を記入する。 ・次時の自分たちのアンサンブルの活動に意欲をもつ。		

## 9 本題材の指導に当たっての工夫

- 表現と鑑賞の関連を図った、総合的な活動。
- 「表現のための鑑賞」ととどまらず、じっくりと音楽鑑賞できる活動としての指導。
- 部分鑑賞による、楽曲の特徴の聴き取り。
- 映像資料の効果的な使用。
- 生徒の意欲的な活動を高める発問、支援の工夫。



C班のメンバーです。よろしく

## 音楽鑑賞指導の研究と実践

### “宇宙の音楽”でない『木星』本来の魅力と教材性は



平成14年度音鑑「夏のセミナー」研究報告3（小学校編）

教材：組曲《惑星》から『木星』（ホルスト作曲）

東京都世田谷区立松沢小学校教諭 大湊 勝弘（Bグループ助言者）

新教育課程の全面実施により授業時間数が縮減され、各学校においては音楽科の授業の質的な改善と、指導と一体となる評価のあり方などについて熱心に研究が進められている。鑑賞については共通教材が示されなくなったせいか、教科書には様々な楽曲が掲載されている。題材構成や指導内容、それに伴う楽曲の選択など、教師の力量が問われているといえよう。

このような中、今年も「夏ゼミ」の暑い夏を過ごした。

今回、夏ゼミの研修期間はこれまでの3泊4日から2泊3日と1日短くはなったが、グループでの研究時間はたっぷりであり、余裕綽々である（はずだった）。

校種別の「実際例の提示」（助言者・山内雅子教諭の『モルダウ』——注1参照）、そして「音楽鑑賞指導の基本的な考え方」（助言者・橋本研教諭）を受け、小学校Bグループの研究が始まった。

#### B班

吉川 武彦 福島大学附属小学校教諭  
飯田 千歳

高知県愛媛県篠山小中学校組合立篠山小学校教諭  
秋場伊津子

神奈川県川崎市立下沼部小学校教諭  
本部 千鶴 宮崎県新富町立富田小学校教諭

根岸 容子 群馬県立赤城養護学校教諭  
助言者 山内 雅子 大湊 勝弘

教材は、一部の教科書の教材にも挙げられているホルスト作曲の組曲《惑星》から『木星』。誰もが知っている名曲で、中間部の美しい旋律はTVコマーシャルにもよく登場する。

この曲を通して、何が指導できるか、どのような学習を考えられるか、また、題材を通して育てたい力は何か、これらを探る作業がさっそく始まった。

#### 音楽そのものから探る『木星』の魅力

音楽の授業においては、『木星』と聞くとすぐに「宇宙の音楽」と結びつけたくなる傾向があるようだ。それは、一般に『木星』は“宇宙の音楽”の一部として扱われ、宇宙の様子を表わす様々な天体や星に関する楽曲と関連づけた音楽活動がよく行なわれるからである。しかし、ホルストが、「占星術的な意義が着想とはなっているが、標題音楽ではない」と述べている点をふまえ、今回のセミナーでは、一般的にとらえられがちな“宇宙の神秘的な音楽”という

（注1）山内雅子教諭の事例提示については、本誌8～9月号に助言者の検討委員会の記録および指導案を掲載しているので、そちらを参照していただきたい。

イメージを払拭し、“音楽を聴いて感じ取ったこと”、そこから『木星』のよさや魅力を大事にした活動を考え、展開のあり方を探っていくことにした。

#### いろいろな『木星』

今回音鑑資料室からリストアップしていただいた『木星』は、CDおよびLD合わせて20種類以上あるが、その中から以下のような演奏を聴いた。

まずはCD…

- ①カラヤン指揮／ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団（7'27"）
- ②ショルティ指揮／ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団（交響楽団）（7'15"）
- ③カラヤン指揮／ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団（7'35"）
- ④デュトワ指揮／モントリオール交響楽団（8'00"）
- ⑤レバイン指揮／シカゴ交響楽団（7'33"）
- ⑥スーザン・オズボーン／ボーカル  
他

このセミナーの目玉の一つは、同じ曲でも様々な演奏スタイルや様々な演奏形態のものを聴くことができることである。膨大な資料を擁する“オンカン”ならではの特徴であり、忙しい教師にとって音楽に浸りきるまたとない機会でもある。

はじめに心を真っ白な状態にして音楽を聴く。

- 全体の様子をとりえて情景想像をする
- 楽器の移り変わりが顕著
- 旋律の反復と変化
- 中間部の美しいメロディー
- 調性感が際だっている
- 華やかな金管楽器など目立ってきこえる楽器に注目、

など、それぞれの曲のよさや特徴、感じることなどを出し合った。

#### 教材研究—この曲で何ができるか

さて、いろいろと感想が出され、この曲

の教材性を整理すると次のようになった。

- ・楽器の様々な音色や重なり合う響きを感じ取る。
- ・旋律の反復と変化に着目する。
- ・中間部分の美しいメロディーを感じ取る。
- ・激しいところや静かなところの変化を感じ取る。
- ・A—B—Aの楽曲構成…
- ・曲全体を通して物語を想像する…  
他

このような考えが出され、いろいろと検討した結果、

- ①オーケストラの楽器の音色や多彩な響き
- ②中間部の美しいメロディー
- ③様々な旋律の反復や変化による曲想の変化

の3つに視点を絞り、授業を進めることにした。

#### 指導の流れ

この曲のよさを感じ取るには、まるごとオーケストラに浸らせ、そこから感じ取ったものを大切に聴き深めることがポイントである。全体をまず聴き、そこから徐々に分析的に聴くという流れである。

しかし、この曲は大変長い曲なので、集中して聴かせるのにどのようにしたらよいのかということが大きな課題となり、そこからなかなか抜け出せなくなってしまった。

さて、頭をひねっているいろいろ考えた結果、

- ア) A—B—Aを大きくとらえて、曲のよさを感じ取る。
- イ) A—B—Aでも、Aの中が4つに分かれている（楽曲の構成参照）ので、それをどのように感じ取らせるか。

この2つの方法からねらいに迫ることになった。

## 楽曲の構成

第1主題 (アレグロ) 2/4拍子 ホルン 金管・弦	第2主題 (アレグロ) 2/4拍子 行進曲風 ホルン・ 弦・木管	第3主題 (アレグロ) 3/4拍子 舞曲風	ファンファーレ 2/4拍子 金管・木管
--	---	--------------------------------	---------------------------

A

B

第4主題 (中間部) 3/4拍子 アンダンテ 弦楽器・ホルン・木管
---

器楽曲での演奏：表現との関連  
♪もっとも美しい部分

A

第1主題 (アレグロ) 2/4拍子 木管・金管	第2主題 (アレグロ) 2/4拍子 行進曲風 ホルン・ 弦・木管	第3主題 (アレグロ) 3/4拍子 舞曲風 木管・グロッ ケン・金管	(レント) 低音	ファンファーレ (プレスト) 2/4拍子 金管・木管
----------------------------------	---	---	-------------	-------------------------------------

この2つの方法をいろいろ検討して話し合いを進めると、Aの部分の楽器をどのように聴き取らせるか、など、だんだん深みにはまっていきそうになるので、「大きくA-B-Aがとらえられればよい」という山内教諭の適切な助言で一件着落！（ここまでなかなか大変な作業でした。）

### 授業の具体的な流れ

さて、柱立てができたところで第2ラウンドの開始。主な題材のねらいを

- ①楽器の響きや音色
- ②旋律の反復と変化

として具体的な授業の流れを検討することになった。

授業の展開は、まず初めに全曲を聴いていろいろな感想を述べさせたなかで、映像で演奏の様子を見たり中間部の旋律に親しませたりするようにしてはどうか、という意見もあり、NHK交響楽団の演奏やフィラデルフィア管弦楽団の演奏を視聴したりもしたが、結果として中間部分の美しいメロディーを聴くことから入り、前後の変化に富んだ曲の構成を通して曲全体を味わうことのできる流れを考えることにした。

ではその手法は、

- リコーダーで演奏する
- 歌ってみる
- オーケストラで聴く

…などいろいろな意見が出たが、旋律を歌うことに決定。そして授業者（飯田千歳教諭）の美しい歌声が披露される。ひとときの静寂の後、みんなの大きな拍手が！

「よし、これでいこう！」

この旋律は、2オクターブもの広い音域をもち歌うにはとても大変であるが、飯田先生は見事に表現してくれた。

### 指導案作成・模擬授業

いよいよ授業の流れも決まり指導案作成に入る。これまで検討してきたことをまとめながら、模擬授業を行なう。ここから先がけっこう時間がかかる。教師の発問——特に鑑賞の授業では、発問の仕方一つで流れがスムーズになったり滞ったりするので、十分吟味をする必要がある。

例えば音楽を聴いて「どうでしたか？」という発問をよくしがちである。これでは子どもにとって何がどうなのか、どう答えてよいかよく分からない。曲想か、構成

や要素的なものか、それとも楽器の音色なのか。教師には発言してほしい「イメージ」があるのだが、曖昧な発問では引き出した意見が出にくい。

楽曲を聴く前に「聴く視点」を与え——発問の視点が子どもの発達段階や既習能力（音楽的な能力）に合うものであることが大事であり——その視点で答えられるような具体的な発問をすることが大切である。

試行錯誤の結果、授業の展開が固まったのは、時計の針も「午前」を指した頃であった。

また、今回は記録者（本部千鶴教諭）の尽力により、研究の経過報告をパソコンで提示することにした（夏ゼミ初だ！）。それも、極力シンプルに提示するように経過報告担当の秋葉伊津子教諭と文言を練りながら、画面でよく分からない部分は話して補足しながら進めるようにした。機器操作では根岸容子教諭がCDの入るタイミングを何回も何回も練習し、本番に備えた。

また、題材名「大好き『木星』」については、一般的には主題による題材構成が多いが、『木星』をまるごと味わわせ、曲のよさに浸ってほしいということから、ここでは楽曲による題材構成とした。なお、使用音源は、金管楽器の輝かしい響き、および楽曲構成の変化が鮮やかなレバイン指揮／シカゴ交響楽団の演奏を選定した。

### Bグループの発表と講評

試行錯誤の末、完成した授業計画。Bグループの発表は、最後の4番目。他のグループはみんな終わってゆったりと昼食をとっていたが、こちらは心が落ち着かない…。

いよいよ発表が始まる。食後の少々眠そうな“オンカン6年生”を相手に、飯田先生の美声により中間部の旋律が歌われる。さらにオーケストラによる演奏。「みんなの心の中にあることを教えてください」との発問に、“子ども”たちからいろいろと感じたことが発表される。

中間部を聴き終え、その前後の演奏を聴

B班のみなさん(右端の男性は本号14ページにご登場の吉川教諭)



くことに。長い『木星』も中間部分をクローズアップした展開により、楽曲全体の特徴やオーケストラの多彩な響きなど、曲想のよさを味わうことができたのではないだろうか。

\*

講評では、研究主管の川池聡先生から教師の発問の仕方について、具体的な発問の工夫が大事であること、また、授業の評価の仕方についてご指導いただいた。

小原光一先生からは、歌う活動を基本におきながら、シンプルな展開であったこと、表現と鑑賞の関連を図る授業が大切であることなど、今後の鑑賞の授業に生きるご指導をいただいた。

### 終わりに

このように、充実した「暑い夏」を終えることができたのも、山内助言者、また班長として個性豊かなメンバーをまとめてくれた吉川武彦教諭のリーダーシップがあり、グループみんなの熱心で且つひたむきな研究への情熱があったればこそである。

助言者としていくつかの提案をさせていただいたが、この研究はメンバーが各地域で実践し、よりよいものへと手を加えていくことにより、さらに光り輝いていくものであると信じている。

## 小学校音楽科学習指導案（第6学年）

### 1. 題材 大好き！『木星』

#### 2. 題材について

高学年の児童はこれまでの学習経験から、いろいろな楽器による音の重なりやその響きを感じ取ることができる。

本題材では、『木星』の鑑賞活動を通して旋律の反復や変化、いろいろな楽器による音の重なりや豊かな響きを感じ取ることができるようにするとともに、楽曲にいつそう親しみをもつことができるようにしたいと考える。

#### 3. 題材の目標

- オーケストラの楽器の音色や重なり合う響きの豊かさを味わう。
- 旋律の反復や変化などに気づき、曲想の変化を感じ取る。

#### 4. 題材の評価規準

- ア 『木星』の演奏に関心をもち、主体的に音楽を聴こうとしている。
- イ 主な旋律の反復や変化、旋律の美しさなどを感じ取っている。
- エ オーケストラの楽器の音色や重なり合う響きの美しさを感じ取っている。

#### 5. 教材と教材選択の観点

教材名 ホルスト作曲 組曲《惑星》から『木星』

##### 教材選択の観点

- 楽器の響きや音の重なりに迫力があり、子どもの心をとらえて離さない。
- 曲想の変化を感じ取りやすい楽曲構成であるため、高学年児童の鑑賞曲として適していると考えられる。
- 器楽合奏曲としても編曲されているので、表現活動との関連を図りやすい。

##### 使用音源と選択の観点

- ①ジェームズ・レヴァイン指揮 シカゴ交響楽団（CD：POCG-1063）  
金管楽器が豊かに響き、特に出だしの部分の迫力はたまらない。前半部・後半部（A）と中間部（B）の曲想の変化がはっきりとしているので、子どもたちが曲の構成を感じ取りやすい。
- ②ユージン・オーマンディ指揮 フィラデルフィア管弦楽団（LD：CDV-102）  
オーケストラのダイナミックな演奏を味わうことができるとともに、いろいろな楽器の音色や重なり合う響きを視覚的にも理解させやすい。

#### 6. 指導計画（2時間）

##### 第1時（本時）

ねらい：中間部（B）の旋律に親しみ、楽曲全体を味わう。

##### 主な学習内容：

- 中間部（B）の旋律に親しむ。
  - ・教師の範唱を聴いたり旋律を口ずさんだりする。
  - ・オーケストラの演奏を聴いてそのよさを感じ取る。

- 楽曲全体の曲想を感じ取る。
  - ・楽曲を通して聴き、気がついたことや感じたことを自由に発表する。

##### 第2時

ねらい：前半部・後半部（A）で演奏されている楽器に親しみ、曲想の変化を感じ取る。

##### 主な学習内容：

- 前時の学習をふり返る。
  - ・前時に感じ取ったことをもとに、全曲を鑑賞する。
- 楽器の音色や音の重なりを感じ取る。
  - ・いろいろな楽器の音色を聴き分ける。
  - ・第1主題を図形譜をもとに鑑賞する。
- 映像を使った鑑賞を通して、オーケストラの演奏のよさを味わう。
  - ・LDを使って視聴する。



授業を担当された飯田教諭

#### 7. 本時の指導

- (1) ねらい ・中間部（B）の旋律に親しみ、曲想を感じ取る。
- (2) 展開

○学習内容	・学習活動	・留意点	☆評価
○『木星』の中間部（B）の旋律に親しむ。 ・教師の範唱で中間部（B）の旋律を聴く。 ・教師と一緒に口ずさむ。		・中間部（B）の旋律を範唱する。 ・フレーズごとに歌ったり、通して歌ったりする。	
○中間部（B）の鑑賞をする。 ・オーケストラ演奏で中間部（B）の部分を聴いて、感じたことを話し合う。		・感想が出にくい時はもう一度聴くようにする。 ・オーケストラの演奏に合わせて口ずさむようにする。	☆中間部（B）の旋律やオーケストラの響きを感じ取ることができる。 (ア・イ：発言、態度観察)
○楽曲全体の曲想を感じ取る。 ・曲の構成を知り、全曲を通して聴く。 ・感じたことを自由に発表する。		・A-B-Aの構成を色画用紙を使って提示する。 ・感じ取った様子について、再度聴き、音を通して確かめるようにする。	☆曲想の変化や音の響き合う美しさを感じ取ることができる。 (イ・エ：発言、態度観察)

## 音楽鑑賞指導の研究と実践

# バレエの感動を舞台芸術入門のきっかけに



平成14年度音鑑「夏のセミナー」研究報告4（中学校編）  
教材バレエ《白鳥の湖》

東京都港区立赤坂中学校教諭 大塚 弥生

### 感動の舞台

夏ゼミ最終日の研究発表。最後の模擬授業の活動で、バレエ《白鳥の湖》のクライマックスを視聴。

「王子が、間違えて黒鳥オディールに結婚を申し込んでしまったことをオデットに謝罪している。そこに悪魔が登場。悪魔と王子の戦い。悪魔の力は強い。再び悪魔が襲いかかろうとする。その時、王子の前にオデットが手を広げて立ちふさがった（有名な『情景』のテーマがここで長調になる）。すると、2人の愛の力で悪魔は倒れてしまう。2人は手を取り合う」。

この場面を視聴した後、生徒役の先生方の発言は「ウルウルした。ああよかった」「強い気持ちが悪魔にうち勝って、光り輝いて…バレエで表わしてすごい」「最後、幸せになれてよかった。言葉がなくてもひきこまれた。音楽が語って踊りもあって…感動！」。

研究発表後にも、他の班の先生から「感動して涙が出そうになった」という声を聞いた。実はわがD班のメンバーも、グループ研究中に「涙が出そうになるね」という会話を何度も交わしていた。今まで私が経験した夏ゼミのグループ研究の教材で、こんなに多くの先生が「涙が出そうになるほど感動した」と言った教材はなかった。

### 題材「舞台芸術の楽しみ」。3つの候補曲から主教材を選ぶ

音楽を伴う舞台芸術には魅力的なものがたくさんある。それらを扱った題材の指導計画作成をDグループの課題とした（別掲の学習指導案の「題材設定の理由」を参照）。

#### D班

市瀬 啓

埼玉県久喜市立太東中学校教諭

小田切貴子

北九州市立枝光台中学校教諭

清田 和泉

群馬県高崎市立片岡中学校教諭

須藤由美子

山形市立高楯中学校教諭

土屋 智鶴

奈良県桜井市立桜井中学校教諭

助言者 長谷川 要子 大塚 弥生

セミナー本番の前に予め助言者の方で、数多くの舞台芸術から、3種類3曲を候補曲として選んでおいた。選択の観点は「ディスク等のソフトが多く、映像資料もあるもの」「舞台芸術の特徴を感じ取りやすいもの」「物語や音楽が生徒に分かりやすいもの」などである。この3つの舞台芸術を見比べ（それぞれ助言者が選んだ5つの場

面を視聴)、その結果、バレエを主教材とすることに決定した。それまでに次のような感想が出ていた。

#### □オペラ《カルメン》

音楽的な要素は豊かであるが、物語の内容が中学生に適しているか、共感できるかが気になる。物語の内容にあまり深入りせずに進めたらよいかも。子どもが出てくる場面は親しみやすい。

#### □バレエ《白鳥の湖》

音楽と踊りの関わりがおもしろい。有名な部分があり、生徒の興味関心を引きやすい教材かもしれない。バレエは今まで扱ってこなかった教材であるから、扱ったら勉強になりそうという意見もあり。

#### □歌舞伎《勧進帳》

自分が見るのはよいのだが、多くの舞台芸術の代表として扱うこと、短い時間で扱うことを考えた場合、他の2つに比べて難しい部分が多そう。

#### 《白鳥の湖》のどこを使うか？ まずは、教材性の洗い出しから

このような長い音楽作品の場合、使用部分の選択は重要である。使用部分によって授業の効果は大きく左右される。

さて、Dグループであるが、やっと「バレエ」に決定し、ホッとしたのもつかの間、休む間もなく使用場面の選択に入る。約2時間かけて全曲を視聴し、教材性を探り、使用できそうな場面をピックアップしていく。題材の目標にある「演技や舞踊などと音楽とのかかわり」「バレエの特徴」あたりをキーワードに、教材性がありそうだと挙がったのは次の部分である。

**情景**（オーボエの有名な旋律の部分。同じ音楽の『情景』は2つある）\*王子のもの悲しい表情とオーボエの音色が合っている。(音楽から受け取る感じと音楽の諸要素、曲想の関係が密接。) \*2つの『情景』の王子の感情は違っているようだ。使用するのどちらがよいか考える必要があ

る。\*2つの『情景』の演奏が違っている。演奏は後半の方が感情が入っている。

**白鳥たちの群舞の部分** \*集団の形式美とバレエらしさを感じる。\*教科書の写真と同じ場面の部分がある。

**杯の踊り** \*群舞の構成美を感じる。踊りの美しさが表面に出ている。\*音楽の変化と踊りの変化が関連している(楽器が少ない時はバレエの人数が減る。トゥッティの部分は人数も増えている)。\*城の中の場面で、舞台装置や衣装・照明が華やか。舞台美術にも着目させることができる。音楽もとても華やか。

**四羽の白鳥の踊り** \*音楽が独特の雰囲気をもっている。とても有名である。

**各国の踊り** \*特徴的なリズムが出てくる。ストーリーには直接かわらない。

**黒鳥オディールの登場** \*なにかに惹きつけられるものがある場面。みんな見入ってしまった。\*「白鳥のテーマ」(注:『情景』と呼ばれるオーボエの有名な主題の旋律を指す)が雰囲気を違えて出てくる。

**王子と黒鳥のグラン・パ・ド・ドゥ** \*有名な黒鳥オディールの32回転が出てくる。

**フィナーレ** (ティンパニの音が鳴り、王子が登場する場面～最後) \*「白鳥のテーマ」が長調に転調して出てくる。

**その他:** バレエ全体を通して変化して出てくる「白鳥のテーマ」の重要性。

#### どの場面を使うかを決定(場面の取捨選択の難しさ)

「この曲の鑑賞を通して何を身につけさせたいか」を話し合い、「音楽と舞踊がかかわりあって、感情が表現されていることに気づかせたい」ということになった。それを踏まえて使用部分を絞ることにするが、さらに細かい条件も加えた。

□バレエの美しさを感じ取らせつつも、ストーリーを追えるようにしたい。

□バレエのいろいろな要素を含む場面にする。その要素の一つとして群舞も見

せたい。

□授業の導入は知っている曲で、生徒の気持ちをつかむ。

そして、最終的に以下の4つの場面を使用することにした。この4つの場面は、すべて「白鳥のテーマ」を含んでいて、このテーマはその時の王子の置かれている状況や心情に密接にかかわっている。このテーマを含む4部分を使用して、王子の心の揺れを追っていく学習活動にした。これらの場面では、登場人物のマイムの表現や表情と、音楽が密接に結びつき、それぞれの表現の効果を高め合っている。

- |   |
|---|
| (1)情景「王子とオデットが踊る場面」<br>①聴取→②視聴→③視聴            |
| (2)花嫁選びの場面～情景「黒鳥の登場」<br>①場面の簡単な説明→②聴取→③視聴     |
| (3)「黒鳥と王子のグラン・パ・ド・ドゥ後から」<br>①視聴→②これまでの部分の小まとめ |
| (4)王子の謝罪 ①視聴→②視聴後に気づいたことや感想などを書かせる。           |

#### カットした場面について

第1時では、バレエ全体の雰囲気や要素をとらえさせ、第2時でそれとかかわらせて他の舞台芸術も扱おうと、当初は考えていた。その考えでいくと、「杯の踊り」は、バレエの雰囲気をとらえるためにぜひ入れたい場面(理由は上記の「教材性の洗い出し」=「杯の踊り」参照)であった。黒鳥の32回転を含む『黒鳥と王子のグラン・パ・ド・ドゥ』も捨てがたい場面だった。

しかし、じっくり聴かせるために使用場面を厳選していく必要に迫られてきた時、心情面を追っていくねらいからは少し外れてしまうこれらの場面を、思いきってカットすることにした。

場面の取捨選択は大変難しい。私たちは、よいと感じる場面をあれもこれも生徒に見せたくながちである。しかし今回はそのまま入れていたら、「音楽を味わう」部分が少なく「バレエを見た」という印象が強くなる授業になるところであった。D班の先生方の「カットする」という決断によ

って、最初に書いたような感動を与える授業ができたのだと思う。助言者の私もこのことは、今回いちばんの勉強になった。

——D班の自慢のようになってしまったが、授業の進め方については多くの課題が残った。シミュレーションをするたびに、発問や意見の整理の仕方、授業の流れなど、新たな問題や疑問がわき上がってくるのだが、いくらやってもきりがなかった。最後は時間切れという感じだったかもしれない。結局みんなが寝た時は午前3時を過ぎていた。

#### 使用した演奏について

「フィナーレ」の部分を中心に、映像を伴う盤を聴き比べた。8枚聴き比べた中で、主に次のような相違が見受けられた。

「演出によって結末が異なる」「出てくる場面の順序や使われている音楽が異なる場合もある」「振り付けの相違や踊り手の印象の違いがある」「アングルや映像の印象、音の質などが異なる」。

使用することに決めたのは、助言者が提案時に使用した盤と同じ、《ポリショイバレエ、全2幕》である。この盤は、音楽、演出、映像が総合的によく、オデット、王子、悪魔(今回は使わなかったが道化師役も好評)など、踊り手の感情表現や技術も際立っていた。

#### D班の先生方

この授業は、心情面にウエイトを置いているため、意見の取り上げ方も難しく、授業者は相当大変であることが予想された。この授業を引き受けてくれたのが市瀬教諭。何度もシミュレーションをくり返し本番に臨んでいた。授業補佐で板書と部分的なまとめをしてくれた小田切教諭は実はバレエ通で、研究中は先生の知識に皆ずいぶん助けられた。本番の機器操作と研究中の板書は須藤教諭の担当。特に、板書のきれいさ、見やすさが班員の中で評判だった。経過報告の清田教諭。ずっとワープロを打ち

D班の先生方、ごくろうさまでした。

続けながら、話し合いに参加。みんなの何倍も疲れたことと思うのだが、とてもわかりやすい経過報告を作ってくれた。そして班長の土野教諭。鑑賞の研究の経験が豊富で、ポイント、ポイントに適切な意見を出してくれる、とても頼もしい班長だった。最後に助言者、長谷川教諭。今回はこの長谷川・大塚の同級生コンビでD班を担当することになったのだが、これは私にとってとてもよい経験となった。私たちはだいたい交代で音鑑の夏ゼミに参加していたので、同じ回に出たのは初めてだった。しかも同じ班で記録と助言を交代で行なったので、



自分とは異なった進め方を見ることができたのも、今回の収穫のひとつになった。(完)

### 中学校音楽科学習指導案(第3学年)

#### 1. 題材 舞台芸術の楽しみ

#### 2. 題材設定の理由

音楽を伴った舞台芸術は、たくさんの種類がある。しかし、限られた授業時数の中では、それほど多くを聴かせることはできない。そこで、1つの舞台芸術の鑑賞を通して、他の舞台芸術にも通じるような楽しみ方に気づき、それによって他の種類の舞台芸術の理解や興味づけの手がかりにしたいと考え、本題材を設定した。

#### 3. 題材の目標

- ・音楽を伴った舞台芸術の演技や舞踊などと、音楽とのかかわりに気づかせる。
- ・教材となっている舞台芸術の特徴をとらえ、すすんで鑑賞しようとする意欲を育てる。

#### 4. 評価の規準

##### A 音楽への関心・意欲・態度

バレエ音楽に関心を持ち、意欲的に学習活動に取り組んでいる。

##### B 音楽的な感受や表現の工夫

場面の違いによる音楽と気持ちの変化を感じ取っている。

##### D 鑑賞の能力

バレエ音楽が文学、演劇、舞踊、美術などどのように結びついているかを聞き取っている。

#### 5. 教材と教材選択の観点

教材 バレエ《白鳥の湖》全2幕 チャイコフスキー作曲

演奏者 A. ジュライティス指揮ポリシヨイ劇場管弦楽団、同バレエ団  
(LD: KRLC1001/2、DVD: PIBC-1024)

#### 6. 指導計画

第1時(50分) バレエ《白鳥の湖》を通して音楽と演技や舞踊のかかわりを感じ取らせる。(本時)

第2時(50分) バレエの舞台芸術としての要素を知って、楽しませる。

#### 7. 本時の展開(第1時)

- (1)ねらい バレエの音楽と舞踊のかかわりを感じ取らせる。
- (2)指導のながれ

<b>1. 『情景』——王子とオデットが踊る場面</b>	
①冒頭部分を聴く。	○バレエの音楽《白鳥の湖》ということに気づかせる。 ★興味をもって聴いている。(A:観察)
②「情景」全体を聴く。	○聴取後、音から感じたことを発表させる。 ★意欲をもって聴き、発表している。(A:観察) ★場面の雰囲気を感じ取っている。(B:発表内容)
③視聴する。	○視聴により気づいたことを発表させる。(バレエの要素面の答えは板書にとどめ、ここでは深入りしない) ★意欲をもって視聴し、発表している。(A:観察) ★踊り手の感情表現に気づいている。(B:発表内容)
④もう一度視聴する。	○踊り手の表情や感情表現に注目しながら視聴させる。 ★意欲をもって視聴している。(A:観察)
<b>2. 花嫁を選ぶ舞踏会の場面～「黒鳥の登場」</b>	
①場面の説明。	○あまり細かいことを教師が説明しすぎない。
②聴く。	○音楽の変化をとらえ、どんな場面かを想像させる。 ★音楽の雰囲気が変わったことをとらえている。(B:発表内容)
③視聴する。	○場面をとらえさせる。「黒鳥と悪魔が出てきた。王子はだまされている」 ★興味をもって視聴し、音楽の雰囲気が変わったこととストーリーの関係に気づいている。(A:観察)
④次の場面へつなげる言葉を投げかける。	○「この2人はどうなると思う?」と、投げかける。
<b>3. 「黒鳥と王子のグラン・パ・ド・ドウのすぐ後の場面」</b>	
①視聴する。	○音楽が変わる瞬間がある。「白鳥のテーマ」が激しい形になって出てくる。王子が悪魔だと気づく。 ★音楽の変化によって場面が変化していることに気づいている。(B:観察)
②今までのながれをまとめる。	
<b>4. 王子の謝罪</b>	
①視聴する。	○物語の内容と音楽のかかわりに注目して視聴させる。見終わった後に、気づいたことや感想などを書かせる。 ★バレエ音楽のよさを味わい、音楽と舞踊の関わりを感じ取っている。(D:ワークシート)
②本時のまとめをする。	○本時の学習内容を情意面についてまとめ、バレエの要素面については次時に扱うことを予告する。